

学校におけるタブレット端末の活用について

1. ロイロノート・スクール の導入

- (1) ロイロノート・スクールとは
 - ①子どもたちの発信を助け、双方向授業を実現するための授業支援クラウド
 - ②小学校から大学まで、すべての授業で使える（仙台市や多賀城市、利府町でも導入）
- (2) ロイロノート・スクールでできること
 - ①考えをまとめたカードを作成し、簡単に発表ができる（発表したい順になぞるだけ）
 - ②カードを共有することで考えを深められる
 - ③カードや作成した資料をクラウド上に保存できる（学習内容の振り返りが可能）
 - ④シンキングツール（比較・分類・関係付けなど、考えるときのパターンを図で示す機能）を使うことで「自分の考えをつくり出すこと」ができる

2. Google Workspace for Education の導入

- (1) Google Workspace for Education とは
 - ①Google が開発した教育機関向けソリューション
 - ②日本で最も使われている ICT 教育サービス
 - ③教育格差是正のため無償で提供されている
- (2) Google Workspace for Education でできること
 - 《教員ができること》
 - ①課題提出・情報共有が容易にできるようになる
 - ②教材準備がどこでもできるようになる
 - ③児童生徒とオンラインコミュニケーションができるようになる
 - ④児童生徒の独創的な活動を支援できるようになる
 - ⑤提出物への評価・指導をオンラインでできるようになる
 - 《保護者ができること》
 - ①学校からのアンケートにオンラインで回答できるようになる
 - ②学校からの連絡事項をオンラインで確認できるようになる
 - ③保護者会や個人面談をビデオ通話でできるようになる

3. AI 型ドリルの導入

- (1) AI 型ドリルの特徴
 - ①AI が苦手な学習要素や誤答を分析・一人ひとりの理解度に合った問題を自動で出題
 - ②場所や時間を問わずに利用できる（クラウド上での操作）
 - ③学習履歴をもとにした授業の改善 など
- (2) 期待される効果
 - ①基礎的・基本的な「知識」「技能」の習得
 - ②授業以外（放課後・家庭）での学習の習慣化
 - ③臨時休業や学校に通うことが困難な児童生徒に対する学びの保障 など

《参考》

1. 塩竈市立月見ヶ丘小学校について

沿革：昭和 32 年 5 月に第一小学校の分校として発足し、翌年 4 月に分離独立・開校。

昭和 53 年 4 月に玉川小学校が分離独立し、現在に至る

児童数等：431 名・19 学級（令和 5 年 5 月 1 日時点）

2. タブレット端末等整備状況について

《令和 2 年度（導入年度）》

- (1) 児童生徒用タブレット端末整備 3, 531 台（小学校：2, 299 台、中学校：1, 232 台）
- (2) 家庭学習用モバイル Wi-Fi ルーター 860 台（小学校：513 台、中学校：347 台）
- (3) オンライン学習配信用カメラ・スピーカフォン 143 台（小学校：94 台、中学校：49 台）
- (4) 校内 LAN 及び無線アクセスポイント設置工事（全普通教室、特別教室各校 6 教室）

《令和 3 年度以降》

- (1) 教員用タブレット端末整備 251 台
 - (2) 児童生徒用タブレット端末整備 20 台（予備機）
 - (3) 大型提示装置（55 インチ）整備 90 台
 - (4) 浦戸小中学校光回線化に伴う接続工事
 - (5) 持ち帰り学習用充電器等周辺機器整備
 - (6) 通信速度向上のためのローカルブレイクアウト工事
 - (7) 教室数増加に対応するための校内 LAN 及び無線アクセスポイントの増設
- ※ 耐用年数経過に伴い令和 7 年度中にタブレット端末及びネットワーク環境等の更新を
国庫補助の活用により実施予定

3. ICT 支援員の配置について

校内に ICT 機器が増えたことで、操作の習得や ICT を活用した授業改善など、新たな業務が発生しましたが、これら業務の多くを教員が負担しています。

負担解消を図るため、委託契約を締結し、令和 3 年度から ICT 支援員を配置しています。

※令和 5 年度における配置人数：3 人